

——『上伊那誌 5』民俗篇下 正誤表——

＜民俗篇下に下記のように誤りなどがありますので
訂正方お願いいたします＞

頁	行(図)	誤	正
17	11	括弧の中へ	括弧の中へ
18	26	オホミナンショ	オヤスミナンショ
19	26	(「すいとん」, ご飯の) 山盛り	(「すいとん」, (ご飯の) 山盛り
21	18	図11.8 (p.256)	図11.8 (p.257)
37	28	中川村片桐方言	中川村葛島方言
57	21	3.1 _{ij}	2.1 _{ij}
58	7	余地	与地
65	12	子音音素の特徴	子音音素の特徴
71	4	[hopwa]	[hopwa]
	24	/o'e/, /u'i/ を選び,	/o'e/, /u'i/ などを選び,
79	33	/o'ojida/	/o'ojida/
81	12	フェーマントによれば,	インフェーマントによれば,
	23	符号する。	符合する。
89	5～6	民野町 野方言	民野町小野方言
91	13	7.2 _{ij}	7.2 _{ij}
	17	7.2 _{ia}	7.2 _{ia}
	35	7.2 _j	7.2 _j
92	10	7.2 _{ij}	7.2 _{ij}
	13	7.2 _i	7.2 _i
	19	7.2 _{ij}	7.2 _{ij}
	21	7.2 _{ia}	7.2 _{ia}
	29	7.2 _{ib}	7.2 _{ib}
	34	7.2 _i	7.2 _i
93	11	7.2 _{ij}	7.2 _{ij}
95	19～20	認められ ない	認められない
121	3	A型と平仮 との	A型と平仮型との
	27	言える ^① 。	言える。
131	35	複合の得合いが弱く	複合の度合いが弱く

141	29	駒ヶ根市中沢	駒ヶ根市東伊那(143頁以下の表でも同じように改める。)
187	8	A 1 型の活用をする。	A 1 型に準じた活用をする。
	13	-ikeerjaa	-'ikeerjaa
197	4	助動詞の活用表	助動詞の活用表
206	19	3.3 _a .1a	3.2 _a .1a
222	22	述べるが、	で述べるが、
226	19	4.3 _a	4.3 _b
	26	4.3 _b	4.3 _c
232	21	4.4 ₂ .1a	4.5 ₂ .1a
243	13	4.4 ₄ .2f	4.5 ₄ .2f
250	11	混合型動詞	変格型動詞
303	図11.54		図形欄に ■ タッケを入れる。
313	図11.64 f. 図11.65		図11.64と図11.65の言語地図を入れかえる。
340	図11.91	(右語形欄15～16行目) またま十三月と書く。	または十三月と書く。
361	図11.112	(質問欄3行目) なくようになりますか。	なくようになります。
376	図11.127	(語形欄6行目) ジスガリ	ジスガレ
377	図11.128		地点5681.9518と6601.0681のタイヨースマ類の記号を、前者はタイヨースマ、後者はタヨソポ(ー)に改める。
394	図11.145	(左語形欄5～6行目) ホータタルバナ	ホータルバナ
433	図11.184	腕を丸で囲んだ記号	ナを丸で囲んだ記号に改める。
449	図11.200	(語形欄2行目) カモウナ	カモーナ
464	図11.215	(語形欄1行目) ヒトガ	ヒトガ
480	図11.231	(語形欄2行目) キューリヲ	キューリヲ
486	図11.237	(語形欄1行目) イカンヲ	イカンヲ
		(語形欄2行目) イカンヲ	イカンヲ
512	1～2 22	わずかに述している。 3.3 ₄	述しようとしている。 3.3 ₄

	26	イタナで	イタナで
516	15	こむ <u>っ</u> ている	こむ <u>っ</u> ている
517	6	こむ <u>る</u> ことがある。	こむ <u>る</u> ことがある。
	29	通しようとする <u>す</u> のに	通しようとする <u>もの</u> に
518	5	「 <u>覚</u> える」の	「 <u>覚</u> える」(図11.194)の
521	9	決め <u>つ</u> つある <u>ある</u>	決め <u>つ</u> つある
	30	間違 <u>い</u> ない④。	間違 <u>い</u> ない④⑤。
522	23	トリオイダ型 (図11.284)	トリオイダ型(2) (図11.284)
523	11~12	シラズ <u>ツ</u> 類	シラズ <u>ツ</u> 類
	12~13	シラズ <u>ツ</u>	シラズ <u>ツ</u>
	17	シラズ <u>ツ</u> 類	シラズ <u>ツ</u> 類
528	25	t-類 と	t-類、p-類と
542	図11.264	〈右語形欄7行目〉ヨーケノ ババサマ	ヨーケノババサ
544	18	天正年間に輸入されたが、	天正年間に輸入されたが、
546	14	さか <u>の</u> ぼりうるならば、	さかのぼりうるならば、
556	14	安格型活用	安格型活用
562	23	浸透力	浸透力
564	22	諏訪全城	諏訪全城
574	10~11	北上している。	北上している④。
588	17	ど <u>ち</u> らを <u>古</u> いか。	ど <u>ち</u> らが <u>古</u> いか。
593	6	声 <u>沢</u>	声 <u>沢</u>
	11	Ⅱa ₂	Ⅱa ₂
599	13	無視して	無視して
613	20	(図11参照)	(p.609の上伊那地図参照)

以上のほか、1、2のことをつけ加えておきます。

本書では、上伊那方言ということばを上伊那地方に行われている方言という意味で用いてあります。また、記述的研究と言語地理学的研究の結果には一部にずれが見られますが、調査法の相違、方言のゆれ、インフォーマントの部分的交替などにもとづくものと判断し、収集した資料をそのまま提示しました。なお、後考に待ちたいと思います。